

筑波大学附属病院、がん患者の栄養とQOLをテーマに勉強会を開催

## がん患者の悪液質と栄養サポート ～ 多職種連携で患者を支える「食」と「生きる力」～

主催：筑波大学附属病院 総合がん診療センター  
リハビリテーション部

筑波大学附属病院では、「がん患者の悪液質と栄養サポート～多職種で患者を支える知識と実践～」をテーマに勉強会を開催します。この勉強会は、筑波大学附属病院が主管する厚生労働省主催「がんのリハビリテーション研修」のフォローアップ活動の一環として、地域の医療従事者や介護・福祉従事者ががん患者の栄養サポートの重要性を啓発することを目的に企画されました。地域医療の質の向上と多職種連携の強化を目標としています。「悪液質(あくえきしつ)」とは、何らかの疾患を原因とする栄養失調により衰弱した状態です。特に、がん患者は病状や薬の副作用によって食欲が抑制されて「食べられない」状態になり、筋肉が減ったり体重が落ちたりすることが少なくありません。そのような状態は、「運動不足で筋肉が落ちた」という状態とは異なりますので、リハビリだけで筋力を回復することは難しく、**栄養状態の回復が重要な要素**となります。勉強会では、「京料理の見た目の美しさ」「料理がおいしそうに見える食器」「嚥下能力が落ちて飲みやすい日本酒」など、**心理面に配慮したり、個人の嗜好に合わせたりする工夫**なども学び、実践に活かしてもらうことを目標としています。**がん患者を支える多くの職種、立場の方が栄養サポートに取り組む際の参考**になれば幸いです。

### 開催概要

日時	2025年1月24日(金) 18:00～19:30(アーカイブ 1月25日～2月28日まで)
会場	筑波大学附属病院桐の葉モール2階講堂およびZoomによるオンライン配信
講師	荒金英樹医師(一般社団法人愛生会山科病院 消化器外科部長)
コーディネーター	清水如代准教授(筑波大学医学医療系リハビリテーション医学)
対象	がん医療に関心のある医療従事者、地域の在宅医療・福祉・介護従事者
参加費	無料(事前申込制)

### 参加申し込み(QRコード)

対面参加締切：2025年1月23日(木)  
アーカイブ配信視聴申し込み締切：2025年2月27日(木)  
アーカイブ配信視聴期間：2025年1月25日～2月28日



### 講師略歴：荒金英樹(あらがねひでき)医師

消化器がん患者さんの治療と栄養管理がご専門。病院内では栄養サポートチームを担当。摂食嚥下障害には地域の力の結集が必要と考え、医療介護の多職種連携体制の構築を目指し活動。さらに京都の伝統食産業に従事する職人の協力をいただきながら、食を支える町づくりへと活動を広げている。京介食推進協議会会長。

### 勉強会の特徴

- 「栄養サポート」に主眼をおいていますが、一見、「栄養とは関係ない？」と思われるリハビリテーション部の若手スタッフ(理学療法士や言語聴覚士)が主体となって勉強会を企画しました
- 「リハビリと栄養は両輪」とされるように、栄養状態が患者の治療効果やリハビリ成果に直結することを実践的かつ包括的に学ぶ場となります。筑波大学附属病院の若手スタッフたちが勉強会の企画にかかる想いを別紙に紹介しています



お問い合わせ先  
筑波大学附属病院  
総合がん診療センター  
電話番号：029-853-8096  
メールアドレス：ccc@un.tsukuba.ac.jp

勉強会「がん患者の悪液質と栄養サポート」を企画した、筑波大学附属病院リハビリテーション部の若手スタッフたちに、企画した背景や勉強会に込めた想いを聞きました。



理学療法士  
湯原 民



作業療法士  
日浅 健太



理学療法士  
有泉 花子



聞き手： 附属病院  
上席医療コミュニケーション  
高橋 りら

#### ◆ 勉強会を企画した背景と参加者に知ってもらいたいこと：目的を教えてください

我々リハビリスタッフは、日々の臨床でがん患者さんと向き合う中で、患者さん一人ひとりが抱える栄養面や体力面での課題に対して問題意識を抱いています。「リハビリと栄養は車の両輪であり、患者さんのQOL向上に不可欠な要素」であることを、がん患者さんを支える地域の多くの方に知ってもらいたいです。

#### ◆ “リハビリのスタッフ”が、どうして“栄養”の勉強会を企画したのですか？

がん患者さんは、治療の副作用や病気の進行によって体力が落ち、食事が摂れなくなることが少なくありません。その結果、リハビリを頑張りたくても体がついていかず、十分な効果を得られないケースを何度も目にしてきました。そうした現場で感じたもどかしさが、今回の勉強会を企画する原動力となりました。また、リハビリスタッフは患者と接する時間が長いため、患者の生活全体を深く知る立場にあります。リハビリを通じて得られる食事の嗜好や悩み、生活環境の情報をもとに、栄養士や看護師、医師といった他(多)職種と連携することで、患者に最適な支援を提供することが目標です。

#### ◆ 勉強会に込めた想いを教えてください

栄養の重要性は、医療者の間でもまだ十分に共有されているとは言えません。『リハ栄養』という考え方があるように、リハビリと栄養は密接に関連しています。患者さんが『口から食べる楽しみ』を取り戻すためには、食事そのものだけでなく、見た目や雰囲気、さらにはその方の人生や文化に寄り添う支援が必要だと感じています。また、がん患者の栄養サポートを「医療だけでなく、文化的・社会的な取り組み」として広めることを目指しています。食事は単なる栄養摂取ではなく、「人生の喜び」や「社会とのつながり」を象徴するものだからです。今回は、その分野で嚥下作用が落ちている患者さんにも食べてもらいやすい食事や食器、お酒などを開発されている京都の先生に講演してもらいます。雅やかな京都の伝統文化を活かした取り組みですので楽しみにして下さい。

#### ◆ 今後の展望を教えてください

この分野は多職種連携でのサポートが大切で、充実したケアにつながります。栄養とリハビリの統合的な支援を推進するため、筑波大学附属病院がハブとなり地域の医療従事者とのネットワーク構築にも行っていきます。また、今回の勉強会をきっかけに、県内外の多職種が連携し、がん患者さんの生活全体を支える新しい医療の形を創り上げていきたいと考えています。ぜひ、多くのサポーターの方に、勉強会へのご参加やご視聴を呼び掛けていきたいです。

